

末期肝疾患に対する生体肝移植

消化器・移植外科 科長
島田光生



■肝移植とは.....肝移植とは病的な肝臓をすべて摘出し、ドナーの方の健康な肝臓を移植するという、他に治療法のない末期肝疾患患者に対する根本的治療法です。新しい肝臓を移植することにより健康な方と変わらない日常生活ができるようになるという画期的な治療法です。

■我が国での現状.....わが国では、脳死体からのドナーが非常に少ないという現状から、健康なドナーのかたから肝臓の一部をいただいて移植する生体肝移植という方法が急速に発達し、これまでに3千例あまりの症例（最近では年間400例以上）が積み重ねられ、5年生存率80%と良好な成績が得られています。

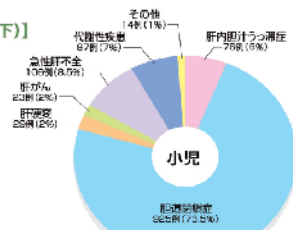
■肝移植が適応となる病気.....肝移植の適応となる疾患は図に示す通りです。なかでも最近、肝がんの患者さんの増加が著しく、肝硬変のみならず治療不能ながんも一挙に根治しうる肝移植の有用性が注目され、良好な成績が報告されています。

■徳島大学病院での体制と実績.....徳島大学病院でも、平成16年4月以来、生体肝移植を再開すべく病院一体となって準備をしてまいりました。そして平成17年2月にB型肝炎の男性に、3月に肝がんの女性及び劇症肝炎の女性、7月にB型肝炎の急性増悪の男性の合計4人に成人間の生体肝移植を実現、成功させることができました。これまで移植が必要な患者さんは、わざわざ県外に出向いて移植を受けざるをえませんでした。徳島大学病院で生体肝移植が再開されたことにより、今後は治療選択の幅も広がり、肝移植に限らず、肝疾患患者に低侵襲かつ根治的な治療が提供できる体制が整いました。今後も肝移植の必要性は増加するものと思われ、治療成績もさらに向上するものと思われます。重い肝臓疾患の方でもあきらめずに治療を続けることが重要です。肝臓病でお悩みの方や不安をお持ちのかたは、ぜひご相談ください。

肝臓移植手術の対象となる病気

【小児の主な病気（18歳以下）】

- 胆道閉鎖症
- その他の肝内胆汁うっ滞症
アラジール症候群
パイラー氏病など
- 先天性代謝性肝疾患
ウィルソン病など
- 急性肝不全
- 肝がん
- 肝硬変
- パッドキアリー症候群



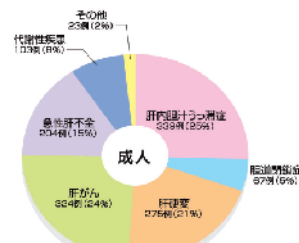
小児（18歳未満）生体肝移植レシピエントの原疾患
（～2003.12、n=1260）

小児の特徴

胆道閉鎖症が最も多く、全体の約70%を占め、以下、急性肝不全、代謝性疾患、肝内胆汁うっ滞症と続く。

【成人の主な疾患】

- 肝がん
- 肝硬変
B型肝炎ウイルス性肝硬変
C型肝炎ウイルス性肝硬変
アルコール性肝硬変
- 肝内胆汁うっ滞症
原発性胆汁性肝硬変（PBC）
原発性硬化性胆管炎（PSC）
- 急性肝不全
ウイルス性、自己免疫性、薬剤性、
原因不明を含む
- 先天性代謝性肝疾患
ウィルソン病、シトリン血症、
家族性アミロイドポリニューロパチーなど
- 胆道閉鎖症 ●多発性嚢胞肝 ●カロリ病
- パッドキアリー症候群



成人（18歳以上）生体肝移植レシピエントの原疾患
（～2003.12、n=1335）

成人の特徴

肝内胆汁うっ滞症、肝がんが多く、全体の4分の1ずつを占める。次いで、近年急増している肝硬変、急性肝不全と続き、この4つの疾患で全体の85%を占める。